

# 親子相互交流療法が子どもと養育者の肯定的な対人相互作用の 促進に及ぼす効果

(中間報告)

関西学院大学大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員 金山裕望  
関西学院大学大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員 水崎優希

## Effects of Parent-Child Interaction Therapy for positive Interaction

Kwansei Gakuin University, Japan Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science,

KANAYAMA, Yumi

Kwansei Gakuin University, Japan Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science,

MIZUSAKI, Yuki

### 要約

子どもにとって養育者と遊ぶ経験は発達の過程において重要な役割を果たす。一方で子どもへのかかわり方や遊び方に悩む養育者が存在する。このような養育者に対する支援法として相互交流療法 (Parent Child Interaction Therapy: PCIT) が挙げられる。PCITは子どもと養育者が遊ぶ場面を取り扱うことが大きな特徴の心理療法であり、PCITの実施によって養育者から子どもへの肯定的な養育行動が増加することが報告されている。しかしながらPCITを実施することが子どもから養育者に対する肯定的なかわりが増加するのか、そして養育者と子どもの肯定的な対人相互作用が増加するのかについては検討されてこなかった。そこで本研究では、子どもへのかかわりに困難を感じている養育者とその子どもにPCITを適用し、遊び場面における子どもから養育者へのかかわりの変化と対人相互作用の変化を明らかにすることを目的とした。

【キー・ワード】親子相互交流療法, 遊び, 対人相互作用

### Abstract

Parent-Child Interaction Therapy (PCIT) is an evidence-based behavioral parent training program, and is conducted through direct coaching by therapists in play situations (McNeil & Humbree-Kigin, 2010). Previous studies suggest that PCIT increased mothers' use of positive parenting skills in play situations. However, these studies have not focused on mother-child interactions. The present study investigated the efficacy of PCIT in the functional relationship between the mother's and the child's behaviors with sequential analysis (Bakeman & Quera, 2011). It was hypothesized that PCIT not only increased the mothers' use of positive parenting skills,

but sequentially, the children also manifested positive behavior toward their mothers.

**【Key words】 Parent-Child Interaction Therapy, play, interaction**

## 問題と目的

子どもの育ちにおいて遊びは重要であり、遊びを援助することが求められる。子どもをとりまく物理的、対人的な環境とかわりをもつことは、心身の調和のとれた発達の基礎となる（野尻, 2015a）。子どもの遊びを援助する際には、遊びに取り組むことを支えられるような大人と子どもの安定した関係が重要である（野尻, 2015b）。以上のことから、子どもの発達を促す上で、子どもと周囲の大人との良好な関係性が必要である。

子どもの重要な他者である大人として、養育者が挙げられる。養育者とのかわりは子どもが最初に経験する対人相互作用であり（井梅, 2017）、養育者との関係を通して、子どもは他者との適切なかわり方を身に着けていく。しかしながら、養育者は子どもとのかわり方に強い困難を感じることもある。このような困難は、養育者のメンタルヘルスの問題や児童虐待に繋がることもある。そのため子どもとのかわり方に困難を抱えている養育者と子どもとが遊ぶことができるよう支援を行うことは、子どもだけでなく養育者によっても重要なことだと考えられる。

子どもと養育者との遊びを支援する心理療法として、親子相互交流療法（Parent Child Interaction Therapy: PCIT）が挙げられる。PCIT の特徴として、セラピストが養育者と子どもとの遊び場を観察し、その場で養育者の肯定的で温かみのあるかわりを増加させる支援を行うことが挙げられる（小平, 2019; McNeil, & Hembree-Kigin, 2010）。実際に PCIT を実施した先行研究において、遊び場面における子どもに対する養育者の肯定的なかわりが増加することが報告されている（たとえば Bagner & Eyberg, 2007）。以上のことから子どもへのかわり方に困難を抱えている養育者に PCIT を適用することで、子どもに肯定的なかわりを教えることが可能になると考えられる。

PCIT は子どもに対しても有効性が示された心理療法である。PCIT を実施した先行研究についてメタ分析を行った Ward, Theule, & Cheung (2016)は、PCIT が子どもの問題行動の低減に有効な支援法であることを報告している。先行研究の多くが子どもの問題行動に焦点を当てており、PCIT が子どもの肯定的なかわりに及ぼす効果については十分に検証されてこなかった。しかしながら養育者が子どもに肯定的なかわりを行うことによって、子どもも養育者に肯定的なかわりを行うようになると考えられる。

そこで本研究では、子どもへのかわりに困難を感じている養育者とその子どもに PCIT を適用し、遊び場面における子どもから養育者への肯定的なかわりが変化するのかを明らかにすることを目的とした。

## 方 法

### 倫理

本研究は関西学院大学「人を対象とする行動学系研究倫理委員会」の承認を受けた(承認番号:2019-38)。

### 対象者

親子間の対人相互作用に困難を抱えている養育者と子ども 15 組を予定している。

### 実施場所

本研究の実施は、親子が遊ぶためのワンウェイミラーのついた部屋とカメラ等の設備が整っている関西学院大学の心理科学実践センターを利用し実施する。

### PCIT の概略

PCIT は、「Japanese version of Parent-Child Interaction Therapy Protocol 2011 (Eyberg & Funderburg, 2011: 加茂(訳) (2011))」の実施手順に従って実施する。PCIT は、親子の関係性における温かさを育む子ども指向相互交流 (Child-Directed Interaction: CDI) と、一貫性がある限界設定としつけの方法を展開していく親指向相互交流 (Parent-Directed Interaction: PDI) という第二段階形式を用いる (小平, 2019)。いずれの段階においても、プレイルームの中で親子に遊んでもらい、セラピストは隣の観察室から、ワンウェイミラーまたはモニターで親子を観察し、トランシーバーを介して直接親に声をかけ (PCIT ではコーチングと呼ぶ) を行っていく (細金, 2018)。PCIT では、このコーチングを通して養育者のスキル獲得を目指す。

### アセスメント

支援前、支援中、支援後、フォローアップ (支援後 3 か月後) に心理士によって実施する。アセスメントは養育者評定の指標と研究者評定の指標を含める。アセスメントは、実施するタイミングによって、①事前アセスメントのみにおいて実施される (9)、②介入前、介入後、フォローアップに実施する (2~5)、③介入前、介入中毎セッション、介入後、フォローアップに実施する (1 および 6~8) に分類される。

養育者評定のアセスメントは以下の 6 つの質問紙である。

- (1) Eyberg Child Behavior Inventory (ECBI; Eyberg & Pincus, 1999)
- (2) Strengths and Difficulties Questionnaire 親評定フォーム (Goodman et al., 2000)
- (3) 養育行動調査票日本語版 (Parent Scale: PS; Arnold, et al., 1993)
- (4) 日本語版養育スタイル尺度 (野寄ら, 2014)
- (5) 日本語版 Parenting Stress Index (PSI) (奈良間ら, 1999)

研究者評定のアセスメントは以下の 4 種が挙げられる。

- (6) 子どもの行動指標 (養育者への肯定的なかかわり (言語・非言語), 養育者への否定的なかかわり, 養育者へかかわりなし)
- (7) Dyadic Parent-Child Interaction Coding System-Third Edition (DPICS-IV; Eyberg, et al., 2013)
- (8) CDI observational assessment of coaching highlights (COACH system; Funderburk et al., 2017)
- (9) 新版 K 式発達検査 2001

## 引用文献

- Arnold, D. S., O'Leary, S. G., Wolff, L. S., & Acker, M. M. (1993). The parenting scale: A measure of dysfunctional parenting in discipline situations. *Psychological Assessment, 5*, 137-144.
- Bagner, D. M. & Eyberg, S. M. (2007). Parent-Child Interaction Therapy for Disruptive Behavior in Children with Mental Retardation: A Randomized Controlled Trial. *Journal of Clinical Child and Adolescent Psychology, 36*, 418-429.
- Eyberg, S. M., & Funderburk, B. (2011). *Parent-Child Interaction Therapy Protocol 2011*. Gainesville, FL: PCIT International.
- (加茂登志子 (訳) (2011). Japanese version of *Parent-Child Interaction Therapy Protocol 2011*. PCIT international.)
- Eyberg, S. M., & Pincus, D. (1999). *Eyberg Child Behavior Inventory and Sutter-Eyberg Student Behavior Inventory-revised: Professional manual*. Odessa, Psychological Assessment Resources.
- (アイバーク, S. M. 加茂登志子 (訳) (2016). 日本語版 ECBI アイバーク子どもの行動評価尺度. 千葉テストセンター)
- Funderburk, B., Gurwitch, R., Shanley, J., Chase, R. Nelson, M. Band, E. & McCoy, C. (2017). *COACH System Manual "CDI Observational Assessment of Coaching Highlights"*
- (加茂登志子 (IR) (2017). COACH システムマニュアル CDI コーチングの観察的アセスメント)
- Goodman, R., Ford, T., Simmons, H., Gatward, R., & Meltzer, H. (2000). Using the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ) to screen for child psychiatric disorders in a community sample. *British Journal of Psychiatry, 177*, 534-539.
- 井梅由美子 (2017). 第 3 章 養育環境と子ども——子どもの心の健やかな育ちのために—— 近藤敏明・渡辺千歳・日向野智子 (編) 子ども学への招待 (pp.36-56) ミネルヴァ書房
- 細金奈奈 (2018). 発達障害児の母子関係への修正的介入：自閉スペクトラム症の男児と母の親子相互交流療法(PCIT)の治療経過を中心に 精神療法, *44*, 168-174
- 小平かやの (2019). 児童福祉領域における PCIT こころの科学, *206*, 55-58.

McNeil, C. B., & Hembree-Kigin, T. L. (2010). *Parent-Child Interaction Therapy*. New York: Springer.

奈良間美保・兼松百合子・荒木暁子・丸光恵・中村伸枝・武田淳子・自畑範子・工藤 美子 (1999). 日本版 Parenting Stress Index(PSI)の信頼性・妥当性の検討 小児保健研究, 58, 610-616.

野尻祐子 (2015a). 遊び 森上史朗・柏女靈峰 (編) 保育用語辞典[第 8 版] (pp.68) ミネルヴァ書房

野尻祐子 (2015b). 自由遊び 森上史朗・柏女靈峰 (編) 保育用語辞典[第 8 版] (pp.68) ミネルヴァ書房

野寄茉莉・中村沙樹・齋藤慈子 (2014) 日本語版養育スタイル尺度の作成と信頼性・妥当性の検討. 日本心理学会第 78 回大会

Ward, M. A., Theule, J., & Cheung, K. (2016). Parent-Child Interaction Therapy for Child Disruptive Behaviour Disorders: A Meta-analysis. *Child & Youth Care Forum*, 45, 675-690.

